

菜の花・卯の花・なんの花

～アブラカタブラ・菜種は安田の『潤活油』～

益田市立安田公民館

1 安田公民館の概要

益田市立安田公民館は、益田市の東部に位置し市街地に隣接している。安田地区は人口約 4200 人、1600 世帯の益田市内では比較的大きな地区であるが、振興住宅街と従来の集落との感覚の違いなどの温度差がある。

2 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名 「菜の花・卯の花・なんの花」

② 実証事業のテーマ

アブラカタブラ・菜種は安田の『潤活油』

③ 実証事業のねらい

景観づくり、健康づくり、生きがいくくり、地域づくり（人づくり）の四点の課題解決に取り組むため、「菜種づくり」を核にし、さまざまな世代や人の交流を通じて、つながりをつくり「循環型エコ社会」の実現を目指す。

(2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）

① 景観づくり

ア実行委員会の立ち上げと事業愛称決定

この事業をよりスムーズに展開するため、公民館運営委員を中心とするメンバーで実行委員会を立ち上げ、「菜の花エコ事業」という愛称をつけた。

また、公民館から「菜の花エコ事業だより」を発行し、栽培場所や、菜種油の販売等も地域に周知した。

イ栽培圃場

休耕地の中で菜種栽培に適した場所を実行委員会で選定し、地権者の同意を得て栽培に取り掛かった。もちろん、いままでの農地も昨年度同様に栽培した。また、地域の方に自分の田畑に菜種をまいてくださる方を募集し、「緑肥」として栽培していただいた。地域の方の栽培約 160a、菜の花エコ事業約 75a、他の事業で約 40a 合計 275a の圃場に菜種を蒔くことができた。2月末現在「緑肥」として水田の耕作前に蒔いた菜種が咲いて、殺風景だった春先の景観づくりに一役かってみんなを喜ばせている。



ウ小学校との連携

地元の安田小学校では、総合的な学習の時間を利用して様々な農業体験をしている。その中で3年生を対象に菜種づくりを取り組んだ。地域講師として学校に関われる方は、「菜の花エコ事業」の実行委員さんにもなっていていただき、連携した取組をおこなえるようにした。今年収穫した菜種の内、小学校児童が栽培した菜種は搾油して児童に配り、各家庭に子どもたちもこの事業に取り組んでいることを周知した。



② 健康づくり

ア啓発活動

昨年度蒔いた菜種は6月に収穫し、乾燥させた後業者をお願いして搾油し販売している。今年は920g入りの菜種油が170本できた。地区の文化祭では、食生活改善推進協議会のみなさんにドレッシングのレシピを作っていただき、いっしょに販売したところ大変好評だった。



イ学習活動

また、公民館の女性教室の中で「地産地消をすすめ、健康づくりを図る」ことを目的に調理実習をおこなった。講師として食生活改善推進協議会のみなさんに「ハンバーグの野菜あんかけ」の調理をご指導いただいた。ハンバーグを焼く時に多目の菜種油を使ったメニューで最初は匂いが気になった方もおられたようだが、みんなでおいしくいただくことができた。

地区の健康づくりの会が主催する「ヘルスサポーター育成事業」でも調理実習として菜種油を使って調理をした。これは、日常の食生活について見直そうという事業である。「地産地消と健康づくり」を目的に地元産大豆を使ったかき揚げを菜種油を使用してみんなで作った。思ったよりも香ばしく、色もきれいに揚がり、さっぱりとした揚げ物になっていた。このメニューは好評で、独居高齢者に配るお弁当の一品にも登場し、見えないところでも菜種油が活躍している。



③ 生きがいくくり

共同の作業を行い、収穫の喜びを味わえる仲間づくりは、今年度初めてこの事業に関わっていただいた方には、多少の労役があり、戸惑われた部分もあったが、すすめていく内に新しい出会いの場所となった。また、菜種の話のみならず、様々な情報交換の場ともなっている。

「安田農業小学校」での小学校の子どもたちとのふれあいは、それまで全くかわりのなかった部分でもあり、「はまってしまった」方もおられるようだ。よい意味で学社連携・融合が知らず知らずの内に自然な形ですすんでいる。



④ 地域づくり（人づくり）

ア 人材の掘り起こし

作業全般にわたり、関わっていただいた方の中には、快く作業機械を操作してくださったり、何日も石ひろいをお手伝いいただいた方もたくさんおられる。特に地域の女性のみなさんはネットワークをフル活用し、自宅近場の作業場所に集合してくださり、フットワークのよさが目立っている。

イ 世代間交流

地域の方の中には畑の作物を観察するだけで、今必要な肥料とその適量が一目でわかる専門家もおられ、とても助かっている。口伝もちろんのこと、いっしょに目で見て学ぶ姿勢も大切であり、ともに活動することで人と人とのつながりができ、信頼関係が深まることが実践を通して実証された。

3 事業の成果と課題

【成果】

- (1) 地域内の休耕地が減少し、美しい景観が広がることで安田自慢ができるようになった。
- (2) 菜種油利用者の増加により、健康・エコに対する意識が高まった。
- (3) 「たより」を発刊することにより、公民館が何をしているのかがわかるようになり、地域の方の公民館への注目度が高まった。

【課題】

- (1) 団塊の世代の方、特に男性を事業に関わってもらうようにする必要がある。
- (2) 菜種油の効能をもっと学習し、広めていく必要がある。
- (3) 作物は連作がきかないので、新規の圃場を確保し、安定した収穫を目指す必要がある。

4 今後の方向性

今後、ますます団塊の世代が増加し、生涯学習、社会教育の場としての公民館の役割が求められていくと思われる。単なるサークル活動の場だけではなく、事業をとおして自分や友人、ひいては地域を高める活動を模索する時代だと思う。

安田公民館は「循環型エコ社会の実現」を軸に、今後も地域のつながりづくりに向けた取組みを、できることから実践していきたいと思う。